

NPO/NGO アジア キッズ ケアだより

【住所】〒791-3131 愛媛県伊予郡松前町北川原 1053-3 【発行者】代表:喜安美紀 【発行日】2011. 4. 15(通巻第7号)
【HP】<http://www12.plala.or.jp/asian-kids-care/> 【E-mail】kids@zpost.plala.or.jp 【設立】2004. 2. 11
【TEL】090-5912-4515 【FAX】089-985-0389 【郵便振替】口座番号:01600-5-13009 口座名義:アジア キッズ ケア
【ゆうちょ銀行】店番:169、店名:一六九店、口座番号(当座):0013009、受取人名:アジアキッズケア

全国から事務所に届けられる支援物資と送料寄付、毎月の荷造りボランティア活動へのご参加、生活・学習困難な子供たちの教育・自立をサポートする里親支援活動へのご協力、こうした皆様の善意とまごころに心から感謝しつつ、会報第7号をお届けします。現在まで、アジアやアフリカの10か国15地域の子供たちを支援していますが、新たにフィリピンへの支援が加わります。フィリピンからの留学生エドワードさん(母国では、大学准教授)とフィリピンの教会の牧師さんとともに、本当に困っている子供たちに対して、私たちのできるサポートをしていきます。当方の事務所を訪ねる留学生たちも真剣、そして誠実に活動してくださっています。

2011. 4. 15

アジア キッズ ケア代表 喜安 美紀

広がる国際協力とボランティア活動の輪

まつやま国際交流センターと連携し、ジュニア国際交流ボランティア入門講座(2月20日)において、松山市内の中学生13名が、荷造りボランティアに参加しました。

加えて、留学生、社会人、愛媛大学国際交流センターのルース先生、先日の交流会で文房具などを提供して下さったさくら小学校の先生も参加し、楽しい活動になりました。

最初に、みんなで自己紹介をし、アジアキッズケアの子ども支援活動の説明を聞いた後、実際のボランティア活動体験です。今月は、インドに送る支援物資の荷づくり作業を手伝います。みんなで力をあわせて、たくさんの人から寄付して頂いた文房具や衣類などの支援物資を箱に詰めました。

そして、箱に自分たちのメッセージを英語で書きました。みんなで荷造りした箱が、海を越えてインドに届き、子どもたちが喜んでる様子を思い浮かべながら書きました。私たちができる小さなことから、ボランティア活動の輪が広がれば、こんなに素晴らしいことはないですね。

最後に、現在松山に来ている留学生たちと握手をしてお別れです。彼らは、母国へ帰国後も、アジアキッズケアの子ども支援の窓口となってくださいます。今日の体験をきっかけに、彼らのように、ボランティア活動を志す日本の青少年が増え、多くの人と喜びを分かち合えるようになればいいですね。(まつやま国際交流センターのHPでも、この活動が紹介されています)

「留学生と小・中学生等による相互理解と支援の架け橋事業」報告

さくら小学校6年生との交流会

アジアキッズケアとさくら小学校6年生との交流会を2月16日(水)に行いました。

最初に、アジアキッズケアの子ども支援活動を説明しました。アジアやアフリカの困っている子どもたちの現状を伝え、全国から支援物資が事務所に届けられ、現地のニーズに応じて発送し、現地協力者を通して「ハンドto ハンド」で届けている支援の連携・協力体制を紹介しました。子どもたちは、熱心に話を聞くとともに、「現地の子どもたちが、一番困っていることは何?」「どういう方法で、支援物資を届けているの?」「どうして、アジアキッズケアの活動を始めたの?」など、たくさんの疑問・質問が出され、それに答えました。

また、留学生と日本の遊び(けん玉、カルタ取り、福笑いなど)を一緒に楽しみました。最後に、子どもたちが収集した文具・衣類等の贈呈があり、約2時間があっという間に過ぎました。子どもたちが、こうした外国の困っている子どもたちの状況を知り、同じ世代の友だちとして、支援活動に参加しながら、自分たちのできることを具体的に考えたことをとてもうれしく思いました。これらの支援物資は、今回、インド、ガーナ、カンボジアに発送させていただきました。

今年度は、事務所で毎月実施している荷作りボランティアに、さくら小学校をはじめ3小学校、松山市と松前町の17 中学校、松山市と松前町の3高等学校、愛媛県の2大学の子どもたちや学生が参加し、留学生や社会人と一緒に汗を流してくださいました。留学生から、母国の現状を聞くとともに、作業をしながら相互理解が図られ、国際交流・国際協力の輪が広がりました。

支援物資(衣類、文具、楽器、日用品等)の発送

- ・2010. 4 インド：チェンナイ(8)
- ・2010. 5 インド：ケララ・カシミール・アラハバット(6)
- ・2010. 6 マリ：カティ(6)
- ・2010. 7 ケニア：キスム(6)
- ・2010. 8 マラウィ(6)、ザンビア(2)
- ・2010. 9 ガーナ(4)、カンボジア(2)
- ・2010. 10 インド・ケララ・カシミール・アラハバット(6)
- ・2010. 11 マリ：カティ(6)

※支援物資の送付実績 422箱 送料経費総額 2,485,425円(2010.10現在)

「幸せだが『自分だけ』ってどうなの？」愛媛新聞による活動紹介

愛媛新聞(愛媛での販売部数は1位)のシリーズ『Voice えひめ・行動者』において、アジアキッズケアの支援活動の紹介(2010.9.2)がありました。以下、「世界の子のため服や文具途上国に贈る～幸せだが『自分だけ』ってどうなの?～」の記事です。このシリーズは、若者の現代社会での様々な行動選択がキーワードになっています。

「アジアキッズケア・世界の子のため服や文具途上国に贈る～幸せだが『自分だけ』ってどうなの?～」

扇風機がうなり声を上げるが、汗はしたたり落ちる。8月中旬の日曜日、松前町の国際支援団体「アジアキッズケア」では月1回の荷作りボランティア活動が行われていた。プレハブ建ての小さな事務所には、全国から寄せられた支援物資が山積み。中高生と社会人、愛媛大の留学生らが肩を寄せ合うようにして、段ボール箱に衣類や文具を詰め込む。

「先月は8箱をマラウィとザンビアに送りました。今日のはガーナとカンボジア行き。暑い所やけん、薄手の服を中心に入れてね」。スタッフが指示を出す。荷物は留学生の家族や牧師らを通じて、貧困にあえぐ地域の子どもたちに届けられる。

「もっと鉛筆やノートも入れようや」。作業をリードするのは印刷職人の松田茂寛(27)＝松山市。荷作りボランティアは、毎回やりたい人が自由に参加する仕組み。社会人の場合は松田のように、初めはホームページを見て一人ですらりと来る人が多いという。奉仕に求める意義も、箱に詰め込む思いも人それぞれ。◇ ◇

「ともすれば『作業的』にもなる。相手の生活をイメージしないとね」。活動歴5年、古株のケイゴ(27)＝仮名、松山市＝はそう心掛ける。愛媛を離れた荷物はアフリカなら船便で約5カ月、段ボール1箱に6～7千円掛かる。現地の物価なら、送料で随分な品が買える。「物だけでなく気持ちも届かないと、成立しないんです」

自身の「気持ち」は就職してまもなく、わき上がった。「僕は仕事して生活できて日々平穏で幸せだけど、『自分だけ』ってどうなのか。誰かに幸せをおすそ分けできないか」

学生時代は目標が見えないまま工業系に進学、進路を外すような冒険もせず、技術職で入ったのは超がつく安定企業。「広い意味で社会のために働いているけど、もっと直接的に社会の役に立つ実感が欲しくなった」

「アジアキッズケア」の活動と並行して、教職への挑戦も続ける。1回ぐらい思い切りやりたいことをやると決めた。「子どもは人生で一番夢を持って、好きなことがやれる時。それをかなえる手助けがしたい」。荷作りにもそんな思いを込める。◇ ◇

松田の場合、己の世界を広げる手段でもある。「ある人は外国を知りたい、別の人は英語を勉強したい、留学生は母国をどうにか良くしたい。個々の意志が集まる所だから、僕は行きやすい」

初参加は2年前の求職中。世界中を見てまわる、CDをつくる、四国遍路八十八カ所巡りなど「いつかやりたいこと」の中で、すぐできるのがボランティアだった。「まだハワイしか行けてないけど、荷造りでつながった分、世界地図の重みが増します」と屈託がない。◇ ◇

「ほら、笑顔で背もたいぶ伸びた。マイクは学校で優秀です、なんて便りが来るとうれしいもんです」。介護職の坂本真由美(36)＝松山市＝は孤児らのドロップアウトを防ぐ養育支援(一人当たり月3千円)にも参加。1年半前からマラウイとマリの子の少年を援助する。

勤務先の日給が6800円。実生活では3児の母だが、月に1日だけマイクらのために働く決めてる。それが気負わないこつ。

「エイズの問題とか、正直わたしには何もできん。でも国の差があっても、教育の重要性は同じ。マイクたちが勉強して立派になって、将来1人でも2人でも助けてくれたら」

国際支援のやり方は多種多様。ハリウッドセレブが途上国の子を養子縁組するのも否定はしない。でも「優雅な生活を獲得する子もラッキーかもしれないけど、少しの援助で普通の子が得るチャンスも大きいんじゃない?」。そう信じたい。(文中敬称略)

毎月実施している荷造りボランティア

今年度、財団法人愛媛県国際交流協会の助成により、「留学生と小・中学生等による相互理解と支援の架け橋事業」を行っています。留学生(マリ、マラウイ、インド、ケニア、フィリピン等)と小・中・高校・大学生等との交流を通して、困難な状況にある外国の子どもたちの状況を知り、支援物資(文房具、楽器、服等)を集め、まごころ込めて現地の子どもたちに送り届ける国際協力・国際支援活動を進めています。

毎月、ボランティアの方々が集まり、全国から送られてきた物資をアジアやアフリカの送付先のニーズに合わせて、心を込めて荷作りし、発送しています。10月の荷造りボランティア(10/24)は、留学生4人、高校生7名、社会人7名、計18名が集まりました。伊予高校では、生徒会役員の皆さんが参加・協力してくださっています。

アジアやアフリカの留学生から、母国の風土・食物・文化・教育事情等を聞いたり、日本のことを紹介したり、日本語や英語で楽しい会話をしながら、荷作り作業を行っています。10月は、アフリカ・マリに送付する支援物資(衣類、文房具、楽器等)を詰め込みました。マリは、サハラ砂漠に位置する暑い国ですので、薄手の衣類が主体になります。日本からの愛とまごころを添えて、現地協力者を通して「ハンドto ハンド」で、現地の支援の必要な子どもたちに手渡しています。現地の子どもたちの笑顔をとってもうれしく思っています。

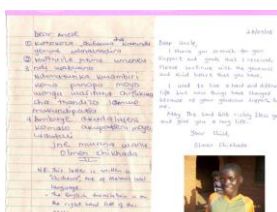


アジアやアフリカの子供たちの生活と教育をサポートする里親孤児支援活動

両親を失ったり、生活が困窮したり、学校に通うことが困難だったり、こうした子供たちの自立を支援するのが、里親孤児支援(毎月3000円の経済的サポート)です。現在、インド、マリ、マラウイ、ケニアなどの子供たちに対して、留学生の家族や牧師さんなどの信頼できる現地協力者を通して、生活の安定、学校教育の推進とともに、将来の就労・自立につなげる「ハンドto ハンド」によるサポート活動を行っています。

現地協力者により、必要な物資や奨学金の贈呈等の誠実なサポートが進められるとともに、送付されてくる子供たちの写真や手紙を日本の支援者に送付しています。そして、子供たちの成長を一緒に喜んでいきます。

将来、彼らの中から、私たちの支援活動に加わり、現地支援のリーダーとなる人材が育つことを願っています。



マラウイ孤児からの手紙



マラウイにおける生活支援



マリの子供たちへの教育支援



両親のない孤児たち(マラウイ、ケニア)

